

令和2年度 第2回米子市図書館協議会・会議録（概要）

○日 時 令和3年1月29日（金） 午後2時から午後3時30分まで

○場 所 米子市立図書館 多目的研修室1・2（2階）

○出席者 委 員

渡邊 眞子、辻田 賢次、井口恵美子、卜蔵 久子、坂口 浩子

野上 亜紀、宇田川恵理、中井 康恵、原 篤成

事務局

（米子市立図書館）菅原館長、（一財）米子市文化財団 佐藤図書課長

（米子市教育委員会）木下生涯学習課長、安田課長補佐、若林主幹

○欠席者 小谷 斉

○傍聴者 2名

○報道関係 なし

【協議会の概要】

開 会

— 事務局より開会

会長挨拶

— 渡邊会長からあいさつ

渡邊会長

では、1番目の「令和2年度上半期事業報告について」の説明をお願いします。

菅原館長

令和2年度上半期の事業報告について説明いたします。資料1の4ページをご覧ください。

今年度の月別の比較として、来館者数、個人貸出冊数、新規登録者数の3項目について、前年度の各月と比較をしております。

今年度は、新型コロナの感染防止のため、4/14から5/6まで臨時休館したことの影響が、4月5月の年度初めに如実に表れております。

令和2年12月末までの累計で比較してみますと、来館者数は対前年度の3割減、70%程度の水準となっております。また、同じように個人貸出冊数は13.6%の減で86%の水準、新規登録者数も3割減で70%程度に止まっています。

現在では徐々に通常に戻りつつあるものの、昨今の緊急事態宣言が一部で発令されている状況や、本県においてもコンスタントに感染者が出ていることを鑑みると、なかなか平常通りに戻りにくいとも考えられます。このままの状況が続けば、令和2年度末での見込みは、来館者が約248,000人で前年度77%程度、個人貸出冊数は約615,000冊で89%、新規登録者数も約1,700人で76%程度の水準に落ち込むのではないかと見込んでおります。

これは、当館がリニューアル以降、最低の数値となるのではないかと考えております。

それでは、上半期の事業についてですが、個別の事業については、ご覧のとおり4月5月の臨時休館の影響を受け、軒並み中止としていますが、前年度合計と比較しますと、参加者が2,270人で6,474人の減となっています。

減少の主な要因ですが、おはなし会が△934人、子ども読書週間の事業の中止が△218人、図書館まつりの中止によるもの△1,990人、文化財団フェスティバルを3月に延期することで△2,037人となっていることが原因であると考えています。

渡邊会長

みなさん質問がありましたらよろしくお願ひします。

ト藏委員

館内見学についてですが、その内容とどのくらい滞在するのでしょうか。

佐藤課長

館内見学・ガイダンスですが、普段ですと1時間半ぐらいかかるところを、感染防止対策として読み聞かせ等を中止し、1時間程度で行うこととしましたほか、案内するのに1グループを10人として、グループごとに館内見学しております。

ト藏委員

見学する小学校が2年生ばかりですが、これは何か意味がありますか。

佐藤課長

小学校2年生の生活科の学習として、図書館見学をされているようです。

ト藏委員

普段見られない部屋も見られるのですか。

佐藤課長

バックヤードとなる書庫や学校支援室、移動図書館車などを見学してもらい、子供たちに喜んでもらっています。

ト藏委員

こういうことを通じて子供たちが本に親しみ、一層の図書館利用につながることを期待します。

渡邊会長

次に「館内アンケート結果について」の説明をお願いします。

菅原館長

アンケート結果について、ご報告いたします。資料2-1と併せて資料2-2をご覧ください。

例年行っております利用者アンケートでございますが、昨年の9月9日から11月30日の間、館内にアンケート用紙を置きまして自由に回答してもらおうやり方で行いました。

その結果、480名の方から回答を得たところでございます。

分析・検証についてでございますが、昨年度からこのような質問形式としておりますので、令和2年度と元年度を比較しながら分析を行っております。

まず、利用者の年齢構成でございますが、ご覧のとおり60代以上の高齢者層の利用が半数以上を占めております。この傾向は以前のアンケート結果からもうかがえるもので、今年度も同様な結果となっています。また、10代以下の回答数が少なくなっていますが、新型コロナ感染防止の関係で研修室の座席数を少なくしていることが影響しているものと考えられます。

その他の年齢層の利用者の構成には変動はありません。

次に総合的な満足度についてですが、昨年度のアンケート結果の中で、ご指摘をいただきまして、図書館に対する評価として新たに質問項目に加えたものです。

結果につきましては、9割以上の方が満足していると評価されています。

年代別にみると、ほとんどの年代に亘って満足と評価される人が9割以上となっておりますが、70代以上の方については、他の年代と比べ若干満足度が低くなっています。

次に図書館を利用する頻度でございますが、月1・2回または週1・2回利用されている方が多く、これらだけで8割以上となりますが、図書の貸出期間が2週間であることとの関連で、概ね2週間に1回程度図書館に来館されるのではないかと考えられます。

年代別では、10代を除く各年代で月1・2回程度利用される方が5割以上を占めますが、週1・2回利用を合わせると、全世代で7割～8割となります。

次に1回当たりの図書館での滞在時間を質問していますが、昨年度の結果とほぼ同様な傾向となっております。

昨年度同様に30分から1時間の間で滞在される人が多く、それを含め入館してから2時間まで滞在される方は9割を占めています。そのうち、1時間以内で帰られる方は7割を超えています。

今年度は、年度当初から新型コロナ対策として、閲覧席等を少なくしたこと、長時間の滞在を遠慮願ったこともあり、昨年度と比べ滞在時間が短くなっているのではないかと考えています。

また、各年代別の滞在時間を見ると、10代以下を除く各年代の滞在時間が2時間以内となっており、概ね9割以上を占めている状況でございます。

次に図書館までの交通手段については、昨年度と同様な傾向がみられますが、自家用車の利用が7割を超え、多くの方が市役所駐車場を利用していると考えられますが、年代別にみると、20代以上の各年代で、自家用車利用が大多数を占めています。

また、交通手段別に滞在時間を見ると、自家用車を交通手段としている人の滞在時間は、9割以上の方が2時間以内で、そのうち1時間以内の滞在時間の人は75.2%を占めています。

次に図書館を利用する主な理由について、3つまでの複数回答していただいたところ、「本・雑誌等の貸出・返却のため」が8割を超え、そのほか「調べものをするため」、「館内で本を読むため」、「館内で雑誌・新聞を読むため」の順で、昨年度とほぼ同様の結果となっております。

次に、今後の図書館サービスとして力を入れるべき項目について、複数回答で問うたところ、「本や雑誌・新聞の充実」を望む人が7割以上おられます。

やはり、図書の充実が図書館の大きな役割の一つであることを再認識しながら、今後も一層の図書の充実に努めていきたいと思っております。

その他では「大人向けの催し物」、「開館時間の延長」、「本や調べものに関する相談」が多い順となっておりますが、前年度の傾向と変わっていません。

年代別に見ますと、若い世代では「開館時間の延長」を求める人が多いですが、子育て世代では「子ども向けの催し物」、高齢世代では「大人向けの催し物」を望まれる傾向にあると思っております。

次に総括ですが、米子市立図書館の利用者の年齢層は、以前から60代以上の利用者が多く、それに比べ若年層の利用が少ない傾向にあるので、若者の利用促進を図っていく必要がありますが、来年度は、県立図書館と県の人材開発センターと共同で、若手の市町村職員を対象として、図書館を活用した研修を考えておりまして、若者の図書館利用につなげればと期待しております。

また、利用頻度から見れば、広報の仕方に工夫が必要となってきますが、ホームページや図書館だよりなどの広報にも限界があることもあり、苦勞をしているところですが、開館状況等のチラシや館内外での掲示

を通じて地道に広報していくこととしています。

今年度はコロナ禍の影響から、イベント等を中止、収容人員に制限をかけざるを得なかった状況の中、新たな「大人向けの催し物」に期待される方も多いところから、来年度から米子高専の先生による「源氏物語を読む会」を開催しようと考えています。

最後に資料2-3「自由意見について」をご覧ください。今回のアンケートに際し、自由意見として9項目に分類し、172件のご意見をいただきました。

詳細については記載のとおりでございますが、特徴としては、新型コロナ感染防止対策として行っています座席数の減少に対して、もう少し増やしてほしいという意見がありましたが、現状の感染状況を鑑みますと座席数を増やすということは難しい状況であると考えます。

渡邊会長

それでは、質問がありましたらよろしくお願ひします。

中井委員

コロナ禍の中で、職員さんたちが頑張っておられることを資料から拝察いたしました。

アンケートにもありましたように、蔵書数や図書の充実などの要望には時間をかけてでも対応してもらいたいと思います。

米子市立図書館には自家用車で来られる人が多いですが、駐車場に関しては米子市の特殊性もありますが、移動図書館車を充実させるとか、公民館や小学校で借りられないかなどを考えてもらえればと思います。

また、調べものに対する欲求が高いことは、非常に喜ばしいことと思いますので、これからも職員のレファレンス能力の向上と学校図書館との連携を強いものとしてもらいたいですし、図書館が調べるところであることを広く周知してもらいたいと思います。

卜藏委員

コロナ禍の中でも子育て支援については必要なものと考えます。

市内には子育て支援センターがあり、子育てサークルも多数あり、読み聞かせなども行っています。

ぜひ図書館の司書さんたちに出向いてもらい、本の読み聞かせなどを行ってもらいながら、家庭教育の支援をしてもらえるようお願いします。

辻田委員

総括の中で、若者の利用促進を図る必要があると書いてありますが、自由意見の中にも読書通帳を置いてほしいとの記載がありました。手帳にシールを貼っていくようなものもありますので、簡単なものを入れて若者の利用促進に繋げていけばいいと思います。

また、研修室の座席が少ないという意見もありましたが、荷物だけ置いて席を離れる人や新聞を独占して読まれる人など、利用者マナーに問題のあるケースがあるようですので、わかりやすいところに掲示するなど、利用者マナーの徹底をお願いします。

菅原館長

読書通帳に関してですが、紙ベースの読書通帳ではありませんが、図書館のホームページのマイページの中で、ご自分の読書履歴をご本人だけが見ることができ、読書通帳の代替になるのではないかと考えています。

佐藤課長

補足しますと図書館のマイページは、スマホ、パソコンから入っていただきますが、その際、ID・パスワードを入力してもらって、読書履歴を残すかどうかを選択してもらうこととなります。紙ベースの読書通帳については、利用促進に繋がるのであれば検討してみたいと思います。

井口委員

学校では、学校図書館が読書センターとしての役割を果たしていますが、学習センターや情報センターとしての役割を果たすことは難しいと思っています。これからも学校と市立図書館が連携を図りながら、子供たちの読書環境を整えればと思っています。

佐藤課長

学校図書館との連携については、年に7回合同の研修会がありますので、情報交換することで情報の共有が計れると考えております。

また、学校からのリクエスト本に関し、テーマ別のリストを作成しホームページなどで周知したいと思いません。

野上委員

若い世代はスマホなどを利用して、検索などするわけですが、図書館での調べものに対するニーズがこんなにあるとは思いませんでした。

どのような調べもの・レファレンスがあるのか、機会があれば知りたいと思います。

宇田川委員

今後の図書館サービスの中で、調べものに対するニーズがかなりあると感じました。

しかしながら、年代によってばらつきもあり、傾向はわかりませんが、潜在的なニーズがかなりあるのではないかと推測します。

図書館に何を相談できるのかという疑問もあり、潜在的なニーズの掘り起こしが必要となってきますが、デジタルを活用するなど、今後は来館される人向けだけでなく、来館されない人への図書館サービスを考えていく必要もあると考えます。

原委員

米子市立図書館が子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受けられたことは、私共にとって大変うれしく思います。

米子市立図書館は米子方式で学校へ図書の配本を行ったり、調べ学習用の「ふるさと米子探検隊」の発行、子供のための100選など、子供たちの読書へのきっかけや利用促進など、学校図書館でも参考にさせてもらっています。

渡邊会長

委員の皆さんから色々な意見を聞くことができましたが、調べものについて、県立図書館の事業で、図書館を活用して夢を実現させるというのがあります。その際、図書館の司書さんたちが、調べものに対しその疑問を解決することに一役買っていることも、以前聞いたことがあります。

こういう地道に活動が利用促進に繋がっていると思います。

渡邊会長

それでは、次に「令和3年度図書館事業計画（案）について」の説明をお願いします。

佐藤課長

それでは、資料3の「令和3年度図書館事業計画（案）」について説明させていただきます。

令和3年度は今年度に引き続き、コロナ禍の中でも安心・安全を第一に考え、資料提供と、市民の学び、成長を支援する図書館として、今後もより一層、地域の皆さまとともに取り組んでいく考えです。

令和3年度についても、米子市立図書館運営方針にもとづき、感染症対策を施した上で、施策を進めてまいります。

まず、運営方針1の「学べる図書館づくり」ですが、市民のニーズに応える幅広い資料の充実に関しまして、アンケートの結果にも出ているように利用者の70%以上が、本と雑誌の充実を挙げています。

そのため、市民ニーズに応える資料を図書館として選書し、蔵書として構成していくよう、一般書・児童書、郷土資料、行政資料の収集、保存、提供に努めて参ります。

鳥取県内の公共図書館との相互貸借を活用するとともに、鳥取県立図書館の県内図書館の宅配便の物流システムを活用しながら、利用者のリクエストにもできるだけ応えていきたいと思ひます。

また、令和元年度より、地元書店の育成と司書の選書能力の向上、書店と図書館との連携強化を図る目的で、地元書店からの購入費割合を増やしており、今年度も図書購入費の約7割が地元書店からの購入となっています。

来年度も引き続き、地元書店との連携を密にしながら、市民のニーズに応えられるよう、資料の充実を図って参ります。

次に、運営方針2の「役立つ図書館づくり」ですが、特に「健康情報コーナー」「健康長寿コーナー」の充実、リニューアルに取り組みます。

30項目の病気に分けて本を収集、病気の治療法や闘病記について健康情報コーナーを設置し、特に認知症やがんについての分野の資料について、利用者の必要としている内容をリサーチし、コーナーの充実を図ります。

また、健康長寿コーナーも7つの項目に分けて本を収集していますが、特に高齢者の趣味を充実させる本や音読の本などを設置していきたいと思ひます。

課題解決に役立つレファレンスを充実させるため、積極的に職員研修に参加するとともに、国立国会図書館協同データベースを活用することで、司書の専門性を高めてまいりたいと思ひます。

運営方針3の「使える図書館づくり」ですが、図書館を利用しにくい人の利便性の向上として、ハートフルコーナーの充実を図るため、視覚障害、聴覚障害、学習障害、弱視の方などの資料、録音図書、点字図書、バリアフリーDVD、布絵本、大活字本などを設置しています。

また、点字版図書館利用案内を鳥取県ライトハウスに依頼し、視覚障がい者の家庭に送付していただき、図書館の利用促進につなげていきます。

最近では外国人の利用者が増えておりますので、外国人の方の図書館利用や読書に対応できるよう、今年度に引き続き、現在ある外国書コーナーの資料の充実を図ります。

運営方針5の「育む図書館づくり」ですが、保育園・幼稚園・認定こども園への支援、子育て支援センターへの支援として、乳幼児絵本セットの貸し出しを実施します。

また、学校図書館支援・米子方式の充実につきましては、テーマリクエスト資料の複本の充実を挙げています。

主体的・対話的で深い学びの実現のための、教科書の改訂に合わせた図書の選書購入、リスト化を図り、来年度も継続してホームページにアップする予定です。

4ページから7ページにかけては、主要事業を掲載しています。

主なものとしては、今年度は感染症予防のため、実施できませんでした春の読書週間に合わせた、子ども読書の日おはなし会、秋の読書週間に合わせた図書館まつりについては、来年度は実施方法を考えながら開催したいと思ひます。

また、ボランティアの方々の協力を得ております、おはなし会は事前予約制で開催しておりますが、来年度も同様な方法で実施したいと考えています。

認知症予防に効果があるとされる音読教室ですが、感染症対策を施した上で、今年度から2クラス制で実施

しております。

鳥取県ジュニア司書養成講座、POPコンテストなど、読書の楽しさを共有できる行事を、引き続き実施したいと思います。

古文書研究会ですが、今年度は一年間中止としておりましたが、来年度より、新しく近藤滋先生をお呼びして第4土曜日に実施することとしております。

渡邊会長

それでは、質問がありましたらよろしくお願いします。

中井委員

若者の利用促進がうたわれていますが、YA通信は今年度から出されたのですか。

佐藤課長

以前から若者の利用促進を鑑みて、年4回発行することとしました。

中井委員

中学校の図書館にYA通信を配布されれば、図書館の利用促進に繋がると思います。

また、YA通信の記事として、図書館ではこんなことができますというような記事も載せればよいと思います。

渡邊会長

図書館のことを知らない人が、まだまだたくさんおられると思います。米子市報に図書館のページがありますが、若者向けの案内を掲載してみることも一考かと思います。

菅原館長

新型コロナ対策の関連として最近の動きを報告いたしますと、鳥取大学がサイエンスアカデミーという大学教授による講演会を昨年からはZOOMでリモート配信を行うようになりました。

昨今の講演会スタイルがリモートで開催されるようになり、今までとは全く異なったやり方に変わりつつあります。

本来ですと、図書館では来館されることを重視してきましたが、今後は来館されなくても図書館行事に接することができるような仕掛けが必要となってくるのではないかと思います。

ト藏委員

今ありましたリモートの件ですが、若者に限らず、あらゆる世代が利用すべきと思います。来館しなくても図書館とつながっているという考えからすれば、ZOOMなどのリモート配信は必要となってくると思います。将来的には、それが来館しての図書館利用につながっていくと思います。

渡邊会長

それでは、その他として何かありますか。

菅原館長

前回の協議会以降の出来事を報告させていただきます。

ご覧になった委員さんもおられると思いますが、1階と2階のカウンターに飛沫飛散防止用のアクリル板が備え付けられました。

これは10月半ばに、鳥取県土地家屋調査士会西部支部からアクリル板設置の申し出があり寄贈されたものでございます。

本来でしたら、予算化してでも設置すべきと考えていただけない、設置型のアクリル板を寄贈していただいたことは、利用者や職員の安心・安全が図られたとして、大変ありがたく思っております。

もう一点は、ご存じのとおり平成2年に鳥取県から移管を受けまして、今年度で米子市立図書館が開館30年を迎えます。

それを記念しまして、講演会を2本開催しましたほか、現在、30周年記念誌を作成中であります。今年度末の完成を目指しておりますが、完成しましたら、委員の皆さんにもご覧になっていただきたいと思っております。

渡邊会長

それでは、時間となりましたので、本日はこれで終わりますが、皆さんご協力をどうもありがとうございました。

以上